



第83期中間報告書

平成20年4月1日から平成20年9月30日まで

**Anritsu**  
アンリツ株式会社



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

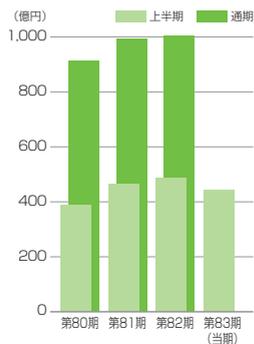
日頃は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第83期上半期（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）の事業の概況並びに決算の状況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

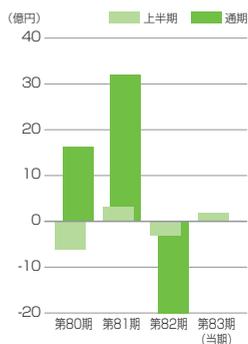
平成20年12月

社長 戸田 博道

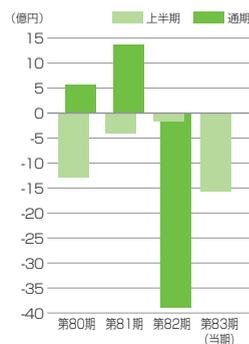
### 売上高



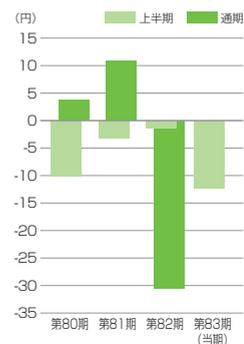
### 経常利益



### 当期純利益



### 1株当たり当期純利益



## ■ 全般的概況

当上半期における世界経済は、サブプライムローン問題に端を発した米国の景気低迷と金融不安を契機として景気減速の動きが世界的に波及するなど、深刻な局面を迎えつつあります。日本におきましても、原材料価格の高止まりと世界的な景気減速の影響を受けて企業業績の悪化が明確になるなど、景気の停滞基調が続きました。

情報通信ネットワークの分野においては、固定通信、移動通信の両分野における多様な方式によるブロードバンド化の推進と統合化の動きや、それらを利用した多種多様なサービスが進展しています。日本では平成20年3月末からNTTグループが次世代通信ネットワーク（NGN：Next Generation Networks）による商用サービスを開始しました。移動通信の分野では、次世代の世界共通の方式となるLTE（Long Term Evolution）への開発投資が本格化しつつあります。新しい技術とサービスの進展による需要の拡大は新規参入事業者を生み出す一方、既存事業者においては事業再編や合従連衡の動きが加速しています。

このような状況にあって当社グループは、年初計画の達成に向けて積極的に取組みを続けてまいりました。

### 1) 「経営革新2008」の実施

計測器事業において、「利益ある成長」戦略を再構築する「経営革新2008」のもと、収益性改善と競争力強化のための施策を推し進めました。

### 2) グローバル展開の強化

計測器事業では、成長市場であるロシアに拠点を開設しました。産業機械事業では、食品の安全・安心へのニーズが世界的に高まる中、タイに開発・生産子会社を設立し、現地生産を開始するなど、日本国外での事業展開の強化と価格競争力の強化を図りました。

当上半期は、主力の計測器事業において、第3世代移動通信サービス（3G）及び3.5世代（3.5G）向け計測器では、米国で基地局建設・保守用のハンドヘルド製品が、アジアで携帯端末製造用がそれぞれ堅調に推移する一方、日本では需要の一巡と携帯端末メーカーの事業撤退の影響などもあり、売上が大幅に減少しました。この結果、受注高、売上高とも前年同期を下回りました。

営業損益は、計測器事業での売上減少にもかかわらず、「経営革新2008」の施策であるKPI（業績効率化指標）マネジメントの徹底などもあり、全体としては営業利益の黒字を確保しました。経常損益も前年同期に比べ改善し、黒字転換を果たしました。なお、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）の適用による営業外費用から営業費用への区分変更に伴い、営業利益が3億76百万円減少しております。

当期純損益は、「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用に伴い、棚卸資産の期首残高に含まれる変更差額（過去分）に係る棚卸資産評価損を特別損失として計上したため、前年同期に比べ当期純損失が拡大しました。

以上の結果、株主の皆様への中間配当につきましては1株につき3円50銭とさせていただきます。

区 分	第80期	第81期	第82期	第82期 上半期	第83期 上半期
売上高(百万円)	91,262	99,445	100,485	48,812	44,426
営業利益(百万円)	4,549	6,358	5,356	1,276	544
経常利益(百万円)	1,628	3,193	△ 2,006	△ 316	176
当期純利益(百万円)	562	1,375	△ 3,900	△ 174	△ 1,565
1株当たり当期純利益(円)	3.76	10.79	△ 30.60	△ 1.37	△ 12.28
総資産(百万円)	152,389	140,395	124,917	143,199	108,834
純資産(百万円)	60,970	61,619	52,845	60,423	40,914
1株当たり純資産額(円)	477.51	483.25	414.16	473.68	320.87
研究開発費(百万円)	12,509	14,072	14,679	7,128	6,341
設備投資額(百万円)	2,698	2,319	2,790	1,184	984
減価償却費(百万円)	3,453	3,599	3,373	1,895	1,508

## ■計測器事業



伝送装置・光モジュール用測定器



次世代移動通信システム用測定器



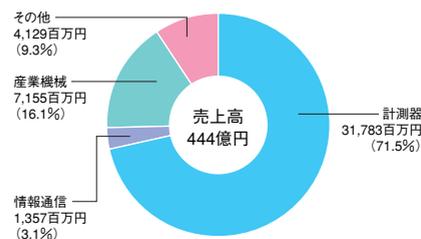
光ファイバ用測定器

この事業は、通信事業者、関連機器メーカー、保守工事業者へ納入するIPネットワーク通信用、移動通信用、RF・マイクロ波・ミリ波帯用など、多機種にわたる通信用及び汎用計測器、測定システム、サービス・アシユアランスの開発、製造、販売を行っています。

当上半期は、3G及び3.5G向け計測器において、米国では基地局建設・保守用のハンドヘルド製品が、アジアでは携帯端末製造用がそれぞれ堅調に推移する一方、日本では研究開発用及び携帯端末製造用の需要が一巡し売上が減少しました。また、光フィールド用テスト、デジタル・IPネットワーク用計測器も、通信事業者や関連機器メーカーの設備投資に伴う需要に堅調さが見られるものの、競争の激化により総じて低調でした。この結果、売上高は317億83百万円（前年同期比12.0%減）となりました。営業利益は、売上の減少にもかかわらず、「経営革新2008」の施策の実行による研究開発投資及び販管費の効率化などにより、89百万円（前年同期比91.3%減）と黒字を確保しました。なお、「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用による営業外費用から営業費用への区分変更に伴い、営業利益が3億33百万円減少しております。

### ■部門別売上高（連結）

区 分	第82期上半期		第83期上半期		前年同期比 増減率
	金 額 百万円	構成比 %	金 額 百万円	構成比 %	
売 上 高	48,812	100.0	44,426	100.0	△ 9.0
計 測 器	36,117	74.0	31,783	71.5	△ 12.0
情 報 通 信	2,178	4.5	1,357	3.1	△ 37.7
産 業 機 械	6,797	13.9	7,155	16.1	5.3
そ の 他	3,717	7.6	4,129	9.3	11.1



## ■情報通信事業



帯域制御装置

この事業は、国土交通省をはじめとする官公庁や地方自治体へ納入する映像監視、テレメータなどの公共情報システム、通信オペレーターやインターネットサービスプロバイダー等向けの映像配信ソリューションや帯域制御装置などの開発、製造、販売を行っています。

当上半期は、公共情報システムなどが堅調に推移しました。しかしながら、前年同期に大口受注を獲得した画像集配信システムは売上が減少しました。この結果、売上高は13億57百万円（前年同期比37.7%減）となりました。営業損益は、売上の減少により4億56百万円の損失（前年同期は2億82百万円の損失）となりました。

なお、本事業は子会社アンリツネットワークス株式会社により事業を展開しております。

## ■産業機械事業



X線異物検出機

この事業は、食品・薬品・化粧品産業向けの生産管理・品質保証システムを事業分野とした、高精度かつ高速の各種自動重量選別機、自動電子計量機、異物検出機などの産業機器の開発、製造、販売を行っています。

当上半期は、食品の安全・安心意識の高まりにより、食品の検査設備への需要が堅調に推移し、特に海外でX線異物検出機や自動重量選別機が好調でした。この結果、売上高は71億55百万円（前年同期比5.3%増）となりました。営業利益は、海外での事業展開強化に伴う費用増などにより、4億13百万円（前年同期比15.2%減）となりました。

なお、本事業は子会社アンリツ産機システム株式会社により事業を展開しております。

## ■その他の事業



印刷はんだ検査機

この事業は、デバイス事業、精密計測事業、環境関連事業及び物流、厚生サービス、不動産賃貸及びその他の事業からなっております。

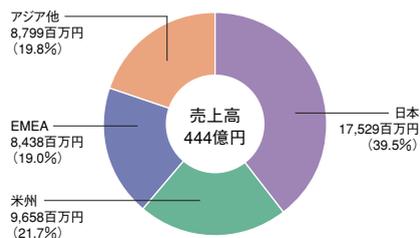
当上半期は、光通信デバイスにおいて動画配信市場向けの需要が伸びるとともに、精密計測事業ではフラットパネルディスプレイ（FPD）検査用設備向けの3次元光センサが好調でした。この結果、売上高は41億29百万円（前年同期比11.1%増）、営業利益は9億63百万円（前年同期比15.8%増）となりました。

なお、精密計測事業につきましては、平成20年4月1日付で会社分割により新設した、子会社アンリツプレジジョン株式会社により事業を展開しております。

## ■地域別売上高（連結）

区 分	第82期上半期		第83期上半期		前年同期比 増減率
	金 額 百万円	構成比 %	金 額 百万円	構成比 %	
売 上 高	48,812	100.0	44,426	100.0	△ 9.0
日 本	21,959	45.0	17,529	39.5	△ 20.2
海 外	26,852	55.0	26,896	60.5	0.2
米 州	9,217	18.9	9,658	21.7	4.8
E M E A	8,961	18.4	8,438	19.0	△ 5.8
アジア他	8,673	17.8	8,799	19.8	1.4

EMEA：欧州、中近東、アフリカ地域



## 連結貸借対照表

第82期 : 平成20年3月31日現在  
第83期上半期 : 平成20年9月30日現在

(単位: 百万円)

科目	第82期	第83期 上半期	科目	第82期	第83期 上半期
<b>資産の部</b>	<b>124,917</b>	<b>108,834</b>	<b>負債の部</b>	<b>72,071</b>	<b>67,920</b>
<b>流動資産</b>	<b>75,659</b>	<b>70,471</b>	<b>流動負債</b>	<b>27,435</b>	<b>31,058</b>
現金及び預金	17,384	20,304	支払手形及び買掛金	7,269	4,441
受取手形及び売掛金	27,616	21,494	① 短期借入金	6,276	13,289
棚卸資産	20,652	18,269	未払法人税等	830	981
繰延税金資産	9,071	9,328	役員賞与引当金	27	-
その他	1,353	1,454	その他	13,031	12,345
貸倒引当金	△ 418	△ 380	<b>固定負債</b>	<b>44,636</b>	<b>36,861</b>
<b>固定資産</b>	<b>49,258</b>	<b>38,363</b>	② 社債	10,000	10,000
<b>有形固定資産</b>	<b>21,946</b>	<b>22,052</b>	③ 新株予約権付社債	15,000	15,000
建物及び構築物	13,306	13,062	① 長期借入金	15,734	7,805
機械装置及び運搬具	2,027	2,356	退職給付引当金	1,866	1,984
工具、器具及び備品	2,056	2,069	役員退職慰労引当金	32	30
土地	4,397	4,428	賞与引当金	8	-
建設仮勘定	157	135	繰延税金負債	865	774
<b>無形固定資産</b>	<b>15,368</b>	<b>4,673</b>	その他	1,129	1,266
のれん	12,518	3,843	<b>純資産の部</b>	<b>52,845</b>	<b>40,914</b>
その他	2,850	829	<b>株主資本</b>	<b>58,540</b>	<b>46,233</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>11,943</b>	<b>11,637</b>	資本金	14,049	14,049
投資有価証券	1,612	1,587	資本剰余金	22,999	22,999
繰延税金資産	1,849	1,931	利益剰余金	22,322	10,018
長期前払費用	7,614	7,469	自己株式	△ 831	△ 834
その他	890	671	<b>評価・換算差額等</b>	<b>△ 5,749</b>	<b>△ 5,339</b>
貸倒引当金	△ 24	△ 22	その他有価証券評価差額金	183	215
<b>合 計</b>	<b>124,917</b>	<b>108,834</b>	繰延ヘッジ損益	△ 22	△ 8
			為替換算調整勘定	△ 5,910	△ 5,546
			<b>新株予約権</b>	<b>54</b>	<b>19</b>
			<b>合 計</b>	<b>124,917</b>	<b>108,834</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表のポイント

### ■ 無形固定資産

当期から「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」が適用されたことに伴い、海外子会社に係る無形固定資産が減少しました。

### ■ 有利子負債

有利子負債の圧縮を引き続き進めた結果、当上半期末の有利子負債残高は460億円(前期末は470億円)となりました。

- ① 短期借入金・長期借入金  
長期借入金70億円が1年以内に返済予定のため、短期借入金に区分変更しました。
- ② 第4回無担保社債  
満期 平成24年9月26日  
利率 年1.87%

- ③ 2010年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債  
満期 平成22年9月21日  
利率 なし  
転換価額 1,070円

### ■ 株主資本

当期から「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」が適用されたことなどにより、利益剰余金が減少しました。

## 連結損益計算書

(第82期上半期：平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)  
(第83期上半期：平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	第82期上半期	第83期上半期
<b>売上高</b>	<b>48,812</b>	<b>44,426</b>
売上原価	27,699	26,576
<b>売上総利益</b>	<b>21,112</b>	<b>17,849</b>
販売費及び一般管理費	19,836	17,305
<b>営業利益</b>	<b>1,276</b>	<b>544</b>
受取利息	106	96
受取配当金	24	23
その他	149	147
<b>営業外収益</b>	<b>279</b>	<b>267</b>
支払利息	433	361
為替差損	11	178
棚卸資産売却損	181	11
棚卸資産評価損	731	-
その他	515	82
<b>営業外費用</b>	<b>1,872</b>	<b>634</b>
<b>経常利益</b>	<b>△ 316</b>	<b>176</b>
新株予約権戻入益	-	34
<b>特別利益</b>	<b>-</b>	<b>34</b>
棚卸資産評価損	-	1,357
投資有価証券評価損	29	52
<b>特別損失</b>	<b>29</b>	<b>1,410</b>
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>△ 345</b>	<b>△ 1,198</b>
法人税、住民税及び事業税	△ 154	828
法人税等調整額	△ 17	△ 462
<b>当期純利益</b>	<b>△ 174</b>	<b>△ 1,565</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書のポイント

### ■ 売上高

主力の計測器事業において、日本で需要の一巡と携帯端末メーカーの事業撤退の影響などがあり、前年同期比9.0%減となりました。

### ■ 営業利益

計測器事業での売上減少にもかかわらず、「経営革新2008」の施策であるKPI(業績効率化指標)マネジメントの徹底などもあり、黒字を確保しました。なお、「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用による営業外費用から営業費用への区分変更に伴い、営業利益が3億76百万円減少しております。

### ■ 特別損失・当期純利益

「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用に伴い、棚卸資産の期首残高に含まれる変更差額(過去分)に係る棚卸資産評価損13億57百万円を特別損失として計上しました。そのため、15億65百万円の当期純損失を計上する結果となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(第82期上半期：平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)  
(第83期上半期：平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	第82期上半期	第83期上半期
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	△ 345	△ 1,198
減価償却費	1,841	1,623
のれん償却額	320	320
受取利息及び受取配当金	△ 130	△ 120
支払利息	433	361
その他の営業外損益・特別損益	71	24
売上債権の減少額	730	6,071
棚卸資産の減少額	209	2,463
仕入債務の減少額	△ 593	△ 2,768
その他	511	△ 629
<b>小計</b>	<b>3,047</b>	<b>6,147</b>
利息及び配当金の受取額	132	117
利息の支払額	△ 505	△ 361
法人税等の支払額	△ 777	△ 724
法人税等の還付額	250	95
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,147</b>	<b>5,274</b>
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△ 1,296	△ 1,047
有形固定資産の売却による収入	73	9
投資有価証券の取得による支出	△ 1	△ 1
投資有価証券の売却による収入	—	5
その他	△ 777	△ 69
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 2,002</b>	<b>△ 1,104</b>
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金純増加額	1,408	338
長期借入れによる収入	668	—
長期借入金の返済による支出	△ 7,108	△ 1,030
社債の発行による収入	10,000	—
提出会社による配当金の支払額	△ 446	△ 446
その他	△ 6	△ 80
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,516</b>	<b>△ 1,219</b>
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△ 195</b>	<b>△ 30</b>
<b>V 現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>4,465</b>	<b>2,919</b>
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>19,946</b>	<b>16,684</b>
<b>VII 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>24,412</b>	<b>19,604</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

### ■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

前期に計上した売上債権の回収が進んだこと及び「経営革新2008」の施策として取り組んだ販売促進用のデモ製品管理の効率化などの棚卸資産の抑制効果などにより、前年同期から約31億円改善させることができました。

### ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出がありました。

### ■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

海外現地法人において長期借入金を返済しました。なお、前年同期においては、第4回無担保社債100億円を発行したほか、長期借入金の返済による支出として、シンジケートローン70億円を返済しております。

## 洞爺湖サミットを支えたアンリツの映像配信技術

平成20年7月に開催された北海道洞爺湖サミット。各国首脳の警備のために、洞爺湖や新千歳空港、プレスセンターが置かれたルスツ周辺に配備された映像監視システムで、アンリツの映像配信機器や帯域制御装置が重要な役割を担いました。

アンリツは洞爺湖サミットに備え特別チームを編成し、北海道開発局殿をはじめとする関係機関の皆様と1年以上にわたって連携しながら、映像監視システムの構築を行いました。開催期間中は、機器を開発したアンリツネットワークス株式会社（アンリツの100%子会社）のエンジニアが24時間体制で不測の事態に備え待機。無事会期を終了し、警備に貢献しました。

©毎日新聞社



マルチレイヤスイッチ MultiFlow10k



トラフィックシェーパーPureFlow GS1シリーズ

## 北京五輪の携帯電話サービスにアンリツの計測器が寄与

北島選手や女子ソフトボールチームなどの活躍で日本中が沸いた北京五輪。この世界最高のスポーツイベントを円滑に運営するために、10万台以上の携帯電話端末がボランティアに配付されました。

アンリツは中国の国家機関や通信事業者のパートナーとして、中国独自の携帯電話システムであるTD-SCDMA方式に対応し、開発・製造・保守の分野で各種計測ソリューションを提供しています。

この実績が評価され、北京五輪用に調達された携帯電話端末の製造にアンリツの計測器を多数使用していただきました。



ラジオコミュニケーションアナライザMT8820B

## 展示会への出展

■ アンリツは、さまざまな展示会に出展し、企業認知度向上やセールスプロモーションに取り組んでいます。

### CEATEC JAPAN 2008

平成20年10月、IT・エレクトロニクス総合展示会CEATEC JAPAN 2008が幕張メッセで開催されました。アンリツは、次世代携帯電話システムとして研究・開発が活発化している第3.9世代携帯電話システム 3GPP LTE やカーエレクトロニクス向け計測器、光ファイバ用ハンドヘルド計測器などを中心にアピールしました。また、今回のCEATECで初めて登場したグリーンITパビリオンにも、グリーンIT推進協議会の一員として参加。パネル展示で環境への取組みを紹介しました。



### 2008 東京国際包装展

アジア最大の総合包装展として毎年多くの食品関連業者が訪れる東京国際包装展（平成20年10月）に、アンリツ産機システム株式会社（アンリツの100%子会社）が参加しました。

アンリツ産機システムは、食品・医薬品などの分野で品質保証ソリューションをグローバルに展開しています。本展示会では、検出感度をさらに向上させたX線異物検出機や金属検出機など、最新鋭の製品を出展。“安全と安心をお届けするアンリツ”を多くのお客様にアピールしました。



## 積極的なIR活動 ～個人株主・投資家の皆様との対話の継続～

■ アンリツは、当社グループの企業活動をご理解いただくために、積極的な情報開示に努めています。その姿勢は、東京証券取引所から平成19年度のディスクロージャー表彰を受賞するという形で実を結びました。今後も個人株主・投資家の皆様との対話を重視し、当社の経営やIR（投資家向け広報）活動等についての貴重なご意見・アドバイスを真摯に受け止め、株主の皆様のご期待に沿えるよう一層努力してまいります。

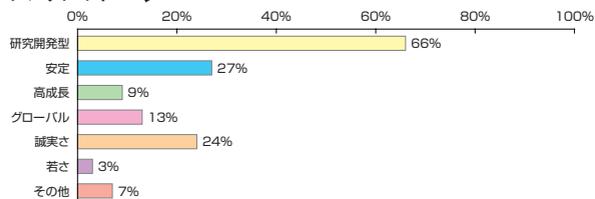
### 株主アンケートの実施

平成20年6月に発送の第82期報告書にて実施いたしましたアンケートにご協力いただき、厚く御礼申し上げます。今回は昨年を上回る492名の方からご回答をいただきました。

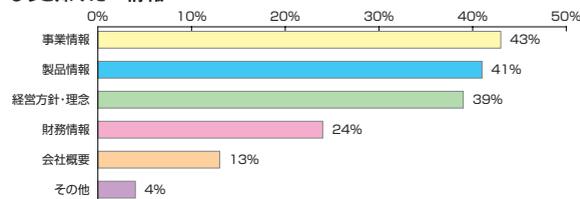
頂戴したご意見は、当社役員に報告し、会社経営に活かしてまいります。また、IR活動の充実にも反映させてまいります。

（本報告書にてもWEBによるアンケートを実施いたします。裏表紙にて詳細をご確認いただき、ご協力をお願いいたします。）

#### アンリツのイメージ



#### もっと知りたい情報



### 日経IRフェアへの参加

平成20年8月22日、23日の両日、東京ビッグサイトで開催された個人投資家向けイベント「日経IRフェア2008 STOCK WORLD」に参加しました。アンリツブースには、昨年を上回る約200名の個人投資家の皆様にご来訪いただきました。また、会社説明会にも参加し、社長が事業内容や今後の取組みについてプレゼンテーションを実施。多数の皆様にご聴講いただき、貴重なご意見が寄せられました。



### アニュアルレポート&CSR報告書

アンリツは、当社グループの活動内容をよりご理解いただくために、「アニュアルレポート」と「CSR報告書」を制作しています。このたび、両報告書の2008年版が完成しました。

アニュアルレポートとCSR報告書は、当社ホームページに掲載しておりますのでご参照ください。

掲載URL [http://www.anritsu.co.jp/J/ir/pdf/anr08web\\_j.pdf](http://www.anritsu.co.jp/J/ir/pdf/anr08web_j.pdf)  
<http://www.anritsu.co.jp/J/csr/pdf/csr2008j.pdf>



## 会社の概要 (平成20年9月30日現在)

商号	アンリツ株式会社 ANRITSU CORPORATION
本社	神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号 (〒243-8555) 電話 (046) 223-1111 (代表)
創立	昭和6年3月17日
資本金	140億円
従業員数	3,951名 (連結) 1,058名 (単独)

### 主要な事業内容

事業部門	主要製品等
計測器	デジタル通信・IPネットワーク用測定器、光通信用測定器、移動通信用測定器、RF・マイクロ波・ミリ波帯汎用測定器、サービス・アシュアランス
情報通信	公共情報システム、画像集配信システム、IPネットワーク機器
産業機械	自動重量選別機、自動電子計量機、異物検出機
その他	精密寸法測定機、光デバイス、不動産賃貸等

## 役員

代表取締役社長	戸田博道
代表取締役	橋本裕一
取締役	マーク・エバンス
取締役	小野浩平
取締役	山口重久
取締役 (社外取締役)	清田 瞭
常勤監査役	庄司耕治
常勤監査役	斉藤五郎
監査役 (社外監査役)	龍岡資晃
監査役 (社外監査役)	的井保夫

## 執行役員

社長	※戸田博道
専務執行役員	※橋本裕一
専務執行役員	※マーク・エバンス
常務執行役員	※小野浩平
常務執行役員	小藤哲司
常務執行役員	※山口重久
執行役員	島村章一
執行役員	フランク・ティアナン
執行役員	小熊康之
執行役員	田中健二
執行役員	高橋光一郎
執行役員	柏木俊洋
執行役員	鷺見孝則

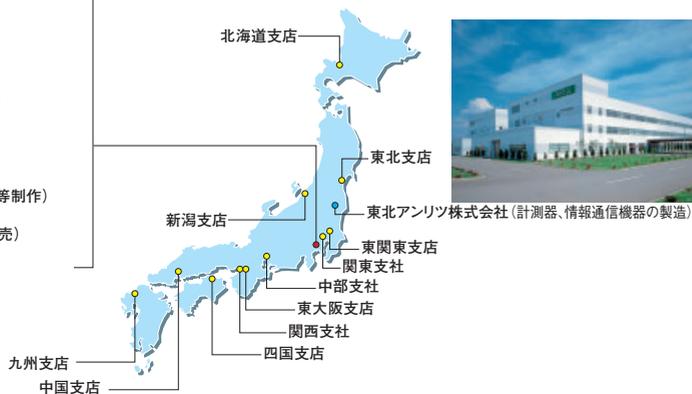
(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しております。

## 国内ネットワーク

アンリツ株式会社（本社）（計測器等の開発、販売）



アンリツ産機システム株式会社（産業機械の開発、製造、販売）  
 アンリツネットワークス株式会社（情報通信機器の開発、販売、保守）  
 アンリツ計測器カスタムサービス株式会社（計測器の校正、修理、保守）  
 アンリツデバイス株式会社（光デバイスの製造）  
 アンリツプレジジョン株式会社（精密計測機器の開発、製造）  
 アンリツエンジニアリング株式会社（ソフトウェアの開発）  
 アンリツ興産株式会社（施設管理、厚生サービス、カタログ等制作）  
 アンリツ不動産株式会社（不動産の賃貸）  
 アンリツテクマック株式会社（加工品、ユニット組立品の製造、販売）  
 株式会社アンリツプロアシエ（シェアードサービスセンター業務）



## 海外ネットワーク



Anritsu EMEA Limited (英国)  
EMEA地域の計測器販売統括



Anritsu A/S (デンマーク)  
計測器の開発、製造、販売

Anritsu U.S. Holding, Inc. (米国)  
海外子会社の持株会社  
Anritsu Company (米国)  
計測器の開発、製造  
米州の計測器販売統括

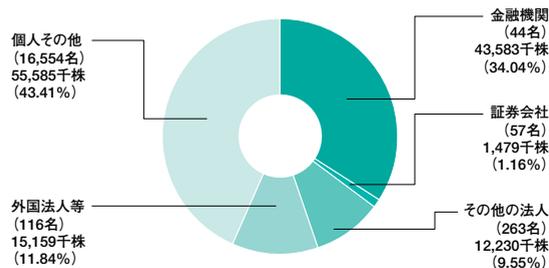


Anritsu Company Ltd. (香港)  
アジア地域の計測器販売統括

- 計測器の開発・製造拠点（現地法人）
- 計測器の営業拠点（現地法人・支店）
- 産業機械の開発・製造拠点（現地法人）
- 産業機械の営業拠点（現地法人）

## 株式の状況 (平成20年9月30日現在)

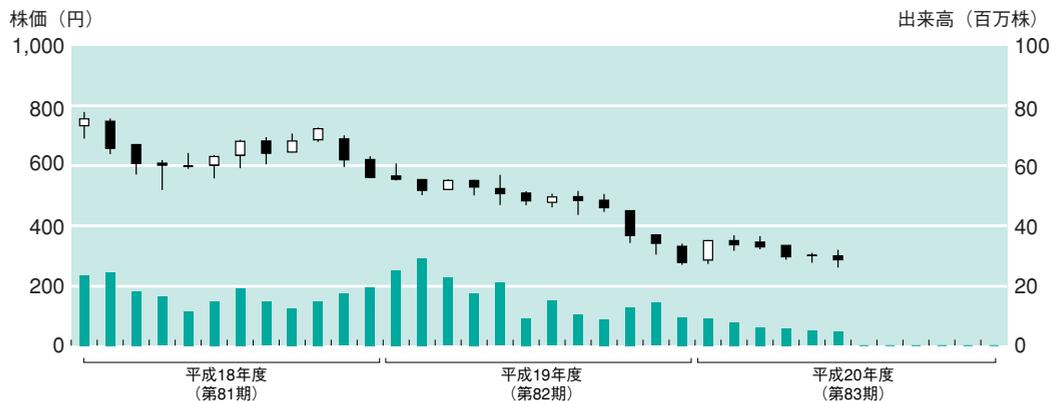
- ・発行可能株式総数 / 400,000,000株
- ・発行済株式の総数 / 128,037,848株
- ・株主数 / 17,034名
- ・株式の所有者別状況



## 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口)	19,200	15.00
日本電気株式会社	8,312	6.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,785	2.96
クレジット スイス ファースト ポストン ヨーロッパ PB セク INT ノントリーティ クライアント	3,153	2.46
三井住友海上火災保険株式会社	2,964	2.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・住友信託退給口	2,500	1.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4G)	2,479	1.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,401	1.88
住友生命保険相互会社	2,314	1.81
バンクオブニューヨークGCMクライアントアカウント JPRD ISG (FE-AC)	1,944	1.52

## 株価・出来高の推移



## 社債の状況

銘柄	発行日	社債残高	転換価額	転換率
平成22年9月21日満期 2010年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債	平成15年9月19日	15,000 百万円	1,070 円	— %
平成24年9月26日満期 第4回無担保社債	平成19年9月26日	10,000	—	—

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日
 

定時株主総会	毎年3月31日
期末配当金	毎年3月31日
中間配当金	毎年9月30日

 そのほか必要があるときはあらかじめ公告して定めた日

- 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

- 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号  
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (郵便物送付先) 東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701)  
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先) 住所変更等用紙のご請求 ☎ 0120-175-417  
 其他のご照会 ☎ 0120-176-417
- (インターネットホームページURL)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

- 同取次所 住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店

#### ■株券電子化後の株式に関するお届出先及びご照会先について

平成21年1月5日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出及びご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたします。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

#### ■株券電子化前後の単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて

(買取請求) 特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年1月26日以降となります。

(買増請求) 平成20年12月12日から平成21年1月4日まで、受付を停止いたします。また、特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。

※単元未満株式について「ほふり」を利用されている株主様につきましては、上記取扱と異なりますので、お取引の証券会社へお問い合わせください。

- 公告の方法 当社ホームページに掲載します。

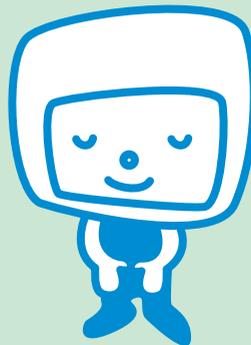
<http://www.anritsu.co.jp/J/koukoku/>

- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

- 証券コード 6754

株主さま向け  
アンケート

株主の  
皆さまの声を  
お聞かせください



当社では、  
株主の皆さまの  
声をお聞かせいただくため、  
アンケートを実施します。  
お手数ではございますが、  
アンケートへのご協力を  
お願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>



アクセスコード  
6754

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、  
いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより  
URL自動返信



[kabu@wjm.jp](mailto:kabu@wjm.jp)へ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)  
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、  
右のQRコードからもアクセスできます。



アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから  
約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝  
(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」 TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

Anritsu

<http://www.anritsu.co.jp>

再生紙を使用しています。

